

古屋拉致問題担当大臣記者会見要旨

日時：平成25年5月31日（金） 8：48～8：53

場所：院内閣議室前

1. 発言要旨

私のほうからは、今日、岐阜県で政府の拉致対策本部と岐阜県共催により、拉致問題を考える国民の集い、いわゆる地方の集いを開催いたします。私、当初出席させていただく予定でしたが、今日は委員会の答弁に重なっておりまして、副大臣も海外出張中ということで、政務官が私に代わって出席をいたします。募集をインターネットで開始をして、3日間で席が全部埋まってしまったそうでございまして、やはり拉致問題の関心の高さが伺えると、こういうことだと思います。やはり世論の喚起というのは極めて大切だなと思っております。今後ともこういった地方での拉致問題の啓発のための会合は積極的に開いていきたいというふうに思っております。

私からは以上であります。

2. 質疑応答

（問）共同通信、江藤です。

昨日、韓国からの報道で、脱北したけれども送還された方の中に松本さんの息子と見られる方がいらっしゃるという報道があったんですけれども、受けとめと、政府として何か対応というか。

（答）これは、官房長官が昨日会見をしたとおり、外交チャンネルを通じましていろいろな情報収集をしています。今日ニュースでは、いや、そうではないというようなニュースも流れていますね。そういったことも含めて総合的に、今、情報収集を外交ルートを通じてやっている。その中身について触れることは控えさせていただきたいと思えます。

（問）これに関しても信ぴょう性を、ということでしょうか。

（答）いや、だから中身のことにについては触れませんが、あらゆる情報は政府として今、外交チャンネルを通じてとっているということです。

（問）松本さん側に何か、御家族に説明されたりとかというのは。

（答）これが、報道がある時点で、拉致対策本部から松本さんには「こういった話があるようですが、政府としては、その中身を今確認しています」という趣旨のことは、昨日の朝早くですかね、連絡はしてあります。

（問）関連で朝日新聞です。

今のお話ですけれども、報道で把握されたというのは、拉致対が把握されたのは、東亜日報の報道の前か後か、どういう経緯なんでしょうか。

（答）だから、いろいろな報道がありますので、そういうものを通じて、政府としてもいろいろなところにアンテナを張っておりますので、そういった情報は入手をして、今調査をしていると。その時期について触れることは控えさせていただきます。

私のほうから一言。脱北者の証言で、30人、海上で拉致をしたというような報道がありましたよね。実は私は今、拉致問題、特に特定失踪者に関して特別指導班をつくって、今、全部洗い出しをしているということは、もう皆さんに報告したとおりでございますけれども、やはり今後は、海上保安庁とも連携を密にして、海上でそういった海難事件というものも、もう一度洗い直す必要があるものについては、しっかり海保とも、警察が連携をとって、そういう洗い直しもしていきたいというふうに思っております。海難事件として処理をされているものについても、もう一度、そういう疑いがないかどうかチェックはしたいというふうに思っています。

(問) 報道されている件も含めてということ。

(答) 全て含めてですね。そういう海難事故についてのことは、そういう形で再調査をすると。これは海保との連携ということが必要でございますので、そういう取組をしていきたいと思っております。

(問) それは、もう始めていると捉えていいんでしょうか。

(答) いや、まだ始めておりませんので、これからそういう捜査をしますということです。

(問) どれぐらい前までさかのぼってされるんですか。

(答) それはまだ、はっきり時期は決めておりませんが、特に、やはり70年代から80年代にかけてはそういうものが非常に多くあったという証言もありますよね。だから、その辺をよく海上保安庁とも連携をしながら、そういうチェックをしていくということになると思います。

以上です。

(以 上)